

平成27年10月1日

～グッドデザイン賞ダブル受賞！ The wonder500 認定多数！ HP リニューアル！～
**山本亨墨田区長が記者会見で
「すみだの強み“地域力”の向上」と「開かれた区政の推進」を発信**

10月1日（火）午後2時半から墨田区役所（吾妻橋一丁目23番20号）の7階庁議室で、山本亨墨田区長が記者会見を開催した。

記者会見の主な内容は3点。まず、「すみだ地域ブランド戦略」と「すみだ食育推進活動」が、すみだの強み“地域力”をさらに高めていく取組みとして評価され、グッドデザイン賞に認定されたこと。次に、すみだブランドから多くのアイテムが国の推進する「The wonder500(ザ・ワンダー・ファイブ・ハンドレット)」に選ばれたこと。

そして、就任時、区長が表明した「スピード感のある、区民に開かれた区政の推進で、区政への関心を高める」の方策の一つとして、本日10月1日から区ホームページをリニューアルし、墨田区としてのフェイスブックもスタートしたことを発表した。

最後は、墨田区内では「すみだ水族館」と「東京金魚」の取組みもグッドデザイン賞を受賞したことを紹介し、「墨田区を代表する区長として、墨田区内でのうれしい出来事・楽しい出来事は、私自身が積極的に発信していきたいと思っている」と力強く語った。

集まった新聞記者ら約20人は、区長の左横の大型スクリーンに映し出された、本日の新設「区のフェイスブック」の画面などを見ながら、真剣にメモを取っていた。

質疑応答を経て、会見終了後、記者たちは会場内に展示された The wonder500(ザ・ワンダー・ファイブ・ハンドレット)の商品を手にとったり、「すみだ食育ワークショップカード」でミニワークショップに参加したりしていた。

《資料》グッドデザイン賞の審査委員による評価のまとめ

《問い合わせ》墨田区広報広聴担当 5608-6309

2015年度グッドデザイン賞を墨田区がダブル受賞しました！

「すみだ地域ブランド戦略」と「すみだ食育ワークショップ“食で育む100のタネ”」が、2015年度グッドデザイン賞に選ばれました。モノではなく“地域・コミュニティづくり”という応募カテゴリーで、『地域力』を向上させる“取組み”そのものが評価され、今後のすみだ区政の進展に大きな励みとなります。

【グッドデザイン審査委員による評価】

地域ブランド

歴史あるものづくりのまちの特性を活かして「あたらしくある。なつかしくある。」というキャッチフレーズのもとモノづくりやコトづくりを推進し、地域の力を高めていくプロジェクト。

明確なキャッチフレーズによって開発の長期の継続性が確保され、すみだならではの個性のかつ洗練度の高い商品が多数作られてきたことや地域が業種を超えて連携出来ているところなどが評価の大きなポイントとなった。

近年は、国内だけでなく国外へも活動の幅を広めている今後の展開も注目すべきプロジェクトである。

すみだ食育ワークショップカード「食で育む100のタネ」

食をテーマとしたコミュニティづくりのサポートツール。

課題、キーワード、アイデア、チェックの4種類からなる住民の小さな声をたくさん集めてできた全4色のファシリテーションカードを使うことによって、住民自らが地域の課題を再認識し、解決へのアイデアを考え、実践するまでのアプローチを導いていくという画期的なツールである。

多世代が認識しやすいカラーリングや文字、内容の選定など使う人に配慮された丁寧な編集デザインにも評価が集まった。

*参考 グッドデザイン賞とは... (HPより抜粋)

グッドデザイン賞は、様々な展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、私たちの暮らしを、産業を、そして社会全体を、より豊かなものへと導くことを目的とした公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「総合的なデザインの推奨制度」です。その母体となったのは、1957年に通商産業省（現経済産業省）によって創設された「グッドデザイン商品選定制度（通称Gマーク制度）」であり、以来約60年にわたって実施されています。その対象はデザインのあらゆる領域にわたり、受賞数は毎年約1,200件、58年間で約42,000件に及んでいます。また、グッドデザイン賞を受賞したデザインには「Gマーク」をつけることが認められます。「Gマーク」は創設以来半世紀以上にわたり、「よいデザイン」の指標として、その役割を果たし続けています。